

アデレード大学看護学部 2015年度 学術交換留学レポート



兵庫医療大学 看護学部の1年生(6名)、4年生(6名)の計12名が、2015年8月17日から9月4日までの3週間、オーストラリアのアデレード大学(オーストラリアで3番目に古く、歴史ある国立大学)へ学術交換留学に参加しました。

関西国際空港より出発

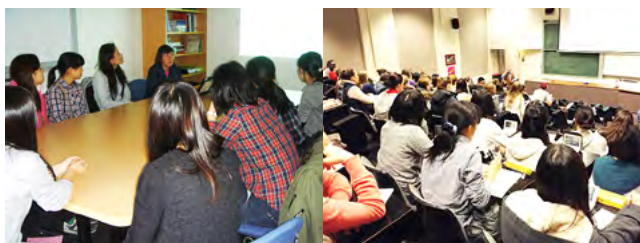


係員の説明を真剣な面持ちで聞いた後、関西国際空港よりいざ、出発へ。

ホストファミリーと対面

アデレード国際空港に到着すると、現地ホームステイ先のそれぞれのホストファミリーがお迎えに来てくれました。いよいよ留学のスタートです。

オーストラリアの看護教育(講義)



副看護学部長であり、留学プログラムコーディネーターでもあるジュディ先生から、オーストラリアの看護教育についてミニレクチャーを受けました。オーストラリアの大学は、日本と異なり3年制です。アデレード大学看護学部の2、3年生は学内での講義・演習と病院での臨床実習を交互に行っていることで、座学で学んだことを即実習で活かせること、また実習で疑問に思ったことや知

識および技術不足と感じたことを学内で確認し復習できるメリットがあるとのことでした。

国際看護学を担当しているフランク先生の脳神経系講義では、講義時間が50分程度で本学学生は皆熱心に講義を受けており、質問にも積極的に答えていました。アデレード大学看護学部では、医学部にある演習室・スキルスラボを共有して使用しています。コンピューターやビデオ撮影を駆使した教示方法が展開され、演習途中でも自己の言動を振り返りながら課題を抽出し、改善点を議論する方法が実践されています。スキルスラボ[※]は、学生が実習する病院と同様の器材が設置されており、ナースステーションもセッティングされています。



※看護技術習得のための各種シミュレーター等を配置した実習室

現地学生との合同演習



・看護技術演習

いよいよ、現地の学生と合同演習です。現地の学生は2年生ですが、社会人や他の学部を卒業してから入学している学生も多く、日本の学生よりも平均年齢が若干高い感じでした。また多民族国家でもあるため、意思の疎通を図るコミュニケーション能力も長けているようです。

一方、参加したばかりの本学学生はドキドキで最初緊張気味でした。この日は現地の学生も心電図の取り方についてまったく初めての演習でした。3年生の先輩方が各

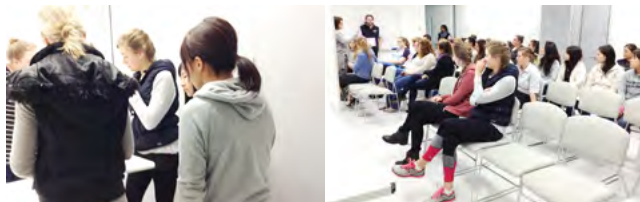
部屋でデモンストレーションによる心電図の取り方、注意点を説明し、質問を受けます。先輩方が去った後、グループで協力しながら演習を行います。本学学生も一緒に行いました。4年生が1年生に教える姿もみられ、頼もしく感じました。

・ Problem Based Learning [問題解決型授業]



3年生（アデレード大学看護学部最終学年）のPBL（問題解決型授業）のクラスに参加。内容は大変高度でディスカッションも素晴らしいものでした。本学の4年生は、自分たちの実習と看護過程の展開を振り返り、もっと積極的に学ばなければならない事を痛感していました。

・ シミュレーション



3年生のPBL後のシミュレーション学習では、PBLでディスカッションした症例を看護学部教員が患者役となり演じます。本物の患者さんからの迫真の演技で学生も真剣に取り組んでいます。本学学生も、1年生と4年生がペアとなり参加しました。

・ チュートリアル（講義）



国際看護学担当のフランク先生による講義では、リフレクション※やセルフケア、倫理について先生の経験談をもとにみんなで考えディスカッションしました。英語

で先生に質問もできるようになってきました。

※経験した出来事を振り返ることで、自分自身を見つめ直すこと

病院見学研修



・ 王立アデレード病院

王立アデレード病院は、アデレード大学看護学部隣接した場所にあります。日本から持参したユニフォームに着替えて病院で見学研修をしました。

王立アデレード病院は、三次医療を担うため、入院患者は全員高度・専門的な医療を受ける人ばかりです。そのため患者さんは手術をして症状が安定すると、3日前後で退院させて自宅療養か、二次医療の病院へ転院させます。入院患者さんの多くは交通事故や若者の危険行為による事故（超高速運転によるジェットスキーの衝突やスキューバダイビングによる事故・潜水病、サメの襲来、ユーカリの自然発火による火事の被害）などが特徴的です。

集中治療室（ICU）、整形外科・脳神経外科の混合病棟、



熱傷ユニット、救急センターで各教育担当者から説明を受けました。

熱傷センターでは、熱傷患者に使用する様々な装具は個々の患者に合うよう、理学療法士などの専門家と協働してのチームアプローチが実践されています。また、熱傷看護の専門看護師は、アデレード市内に加え遠方のオーストラリア北部のダウインにある施設などとWebを利用して遠隔でケアのアドバイスをしているとのこと。救急センターには、来院した患者の症状の程度により診

療の順番や診療室を分類するトリアージ看護師が在籍し、効率よいシステムがとられています。



・セント・アンドリュース病院（私立）

1936年にその時代では珍しく女性によって設立された創立80年を迎える病院で、2016年に新病院が建設予定です。日帰り手術病棟やICU・HCU、院内にある教会や講義室、食堂などを見学しました。病室はトイレ付で広く

清潔感がありました。食事は専任のシェフが選んだ新鮮でクオリティの高い食材を用いて工夫しているとのことです。



本学学生にとっては驚きの連続でしたが、公立と私立の両方の病院を見学したことで、それぞれの特徴を理解でき学びを深めることができました。

ブッシュダンスパーティ



「ブッシュ・ダンス」という名の海外留学生交流会があり、そこでホストファミリーが持ち寄った料理をみんなでいただき、その後ダンスが始まりました。

フォークダンスのようなもので、以前は郊外にある本物のブッシュ（森林）の中で、現地の学生も交えてダンスが行われていたようです。今は安全面や衛生面を考えて、市民ホールを使って行われています。日本から来ていた他の留学生とも交流を行い、ずっと英語の生活で緊張していた学生も、久しぶりの日本語の会話に終始和んだ雰囲気でした。

研修最後のプレゼンテーション

アデレード大学看護学部の先生方を前に、アデレードで体験したこと・学んだこと・感じたことを率直に発表しました。発表後のディスカッションでは、アデレード大学の学生が日本へ留学するにあたってどのようなことを準備すべきかが話し合われ、出席して下さった先生方からは「well done!」とお言葉をいただきました。

<p>OUR IMPRESSION</p> <ul style="list-style-type: none"> > We should try something before disliking it. > I think Asian people may feel small. > It is natural that Australian culture is different from Japanese. It is important to try to understand each other. > We think Japanese should express their own idea to others. 	<p>MEDICAL TEAM CARE</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Australia (Adelaide) Conference with nurse and doctor every day Medical information on paper ✓ Japan Conference with nurse and doctor sometimes.. Medical information using electric recording
---	---

PCE (Professional & Continuing Education) 主催の Graduation dinner

全員修了書を手にニコリ。ホストファミリーも出席され、忘れがたい貴重な経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

English Language Centre

Hyogo University of Health Sciences 2015

adelaide.edu.au/elc

seek LIGHT | GROUP OF INSTITUTIONS

3週間前とは比べ物にならないくらい多くの出会いと経験と英語の力を身につけ、帰国の途につきました。

プログラムに参加して日本以外の看護の現場や学びに触れ、大きく視野が開けた学生も多く、この経験を糧として、今後の学習や現場での活躍に対して大いに期待しています。